

平成 20 年病害虫の発生と防除

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課
農産安全管理課

新年を迎え、次期作に向けた諸準備を始めるころであるが、病害虫対策を検討するに当たり、平成 20 年に公表された気象庁資料、各都道府県の発生予察情報および各種統計報告を基に、気象経過、主要病害虫の発生概況および植物防疫事業概況などを取りまとめたので、今後の病害虫防除対策の検討資料として紹介する。

また、平成 20 年に都道府県から公表された病害虫発生予察情報（注意報、特殊報）について、表-2 にとりまとめたので、本文での病害虫発生状況の記述と併せ参照されたい。

I 病害虫発生の概況

平成 20 年の病害虫の発生を年頭から振り返ってみると、冬から春先の病害虫の発生は、春先が高温となったため、越冬した害虫の発生時期は平年よりやや早かったが、越冬量が平年以下であってことから、特に大きな被害に繋がる発生は見られなかった。その後、4 月下旬以降、特に 5 月中旬から 6 月上旬にかけて、関東以西で降雨が多く、日照時間が短かったことから、なしの黒星病等果樹病害の発生が多く見られた。6 月中旬以降、天候は一転し、高温・小雨となり、その後続いたことから、病害の発生は抑制されたが、水稻や果樹のカメムシ類など害虫の発生が多く見られた。

II 平成 20 年の天候経過の概況

冬期間（平成 19 年 12 月～平成 20 年 2 月）は、12 月から 1 月上旬まで、低気圧の影響から、関東以北の日本海側で曇りや雨または雪が多く、関東以北の太平洋側および近畿以西でも晴れの日は少なかった。2 月後半以降は、強い寒気の南下とともに冬型の気圧配置が強まる時期があり、日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では晴れの日が多かった。気温は関東以西で高い日が多く、特に沖縄・奄美では晴れてかなり高い日が多かったが、1 月中旬以降、全国的に平年並か平年を下回る日が続き、沖縄・奄美では 2 月中旬にはかなり低くなった。降水量は、12 月から 1 月上旬にかけて日本海

側で曇りや雪または雨の日が多かったが、期間中の降水量、降雪量はともに少なかった。2 月以降、北海道、東北および北陸の日本海側ではかなり少なかった。また、関東以西の太平洋側および沖縄・奄美では、平年と比べて曇りや雨または雪の日が多かった。

春期間（3～5 月）は寒気が南下した 5 月を除き、全国的に平年に比べ高温となり、特に東海地域から北海道にかけての広い地域でかなりの高温となった。降水量は、関東から四国までの広い地域で平年に比べ多く、特に関東から東海において低気圧の影響を強く受け、記録的な降雨となった。一方、関東以北は低気圧や寒気の影響が少なく、春期間を通して気温が高く、晴れた日が多かったため、特に太平洋側では日照時間が平年に比べ少なくなった。なお、沖縄・奄美では、気温、降水量、日照時間ともに平年並となった。

夏期間（6～8 月）は、6 月に梅雨前線の影響を受けた関東から九州までの広い地域で、曇りや雨が多くなり、特に九州を中心とする西日本で大雨となる場所があった。逆に、関東以北は、高気圧に覆われ晴れの日が多かった。一方、7 月に入ると梅雨前線の活動が弱まり、高気圧の影響を強く受けた関東から九州にかけて晴れて暑い日が 8 月前半まで続いたが、関東以北は低気圧や前線の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。その後、8 月後半に寒気が南下し、低気圧や前線の影響を受け各地で大雨となり、夏期間の天候は変動が大きかった。なお、沖縄・奄美は、梅雨明け後、高気圧に覆われ、気温が高く、降水量は少なかった。

秋期間（9～11 月）の 9 月は、寒気の南下がほとんどなく、高気圧に覆われ全国的に晴れの日が多く、高温となった。特に、高気圧の影響を強く受けた北海道、東北地方は、降水量が平年の半分程度と少なく、逆に日照時間は記録的に長かった。一方、沖縄・奄美は、台風 13 号および台風 15 号の接近により暴風や大雨となり、特に与那国では、台風 13 号の接近に伴い、観測開始以来最大となる降水量を記録した。また、10 月は 9 月と同様に寒気の南下がほとんどなく、高気圧に覆われたことから全国的に晴れの日が多く、高温となった。特に高気圧の影響を強く受けた北海道、東北地方、近畿以西の日本海側では降水量が平年の半分以下と少なく、一方、低気圧や前線の影響を受けた近畿以西の太平洋側では日

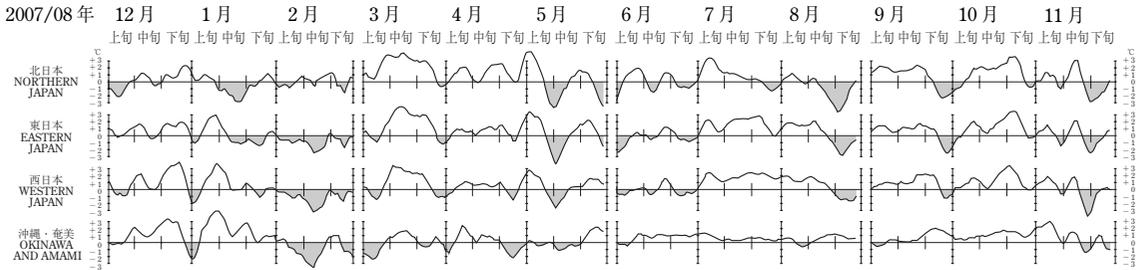


図-1 地域別平均気温平年差の経緯 (5日移動平均)：気象庁報道発表資料から抜粋

照時間が平年よりも短かった。11月は北海道、東北地方で上旬から中旬にかけて高気圧に覆われ、晴れが続いた。一方、関東以西では上旬に前線の影響で天気が不順となったが、その後、高気圧に覆われおおむね晴れた。月の後半は、強い寒気の影響を受けた近畿以西の日本海側で降雪が見られた。

III 作物別の病害虫発生状況の概況

1 水稲病害虫

病害：4月下旬から6月上旬にかけ、降雨が多く日照時間も短いことから、いもち病（葉いもち）の発生が懸念されたが、被害に繋がる発生は見られず、6月中旬以降、天候が好転し高温・少雨となり、全国的に発生は抑えられた。なお、いもち病（穂いもち）に関する注意報が2件発表された。また、縞葉枯病について、媒介虫のヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒の割合が高い地域やヒメトビウンカの生息密度が高い地域において、本虫の防除の徹底を呼びかける注意報が3件発表された。

害虫：トラップによるウンカ類の飛来調査では、平成20年のウンカ類の飛来開始時期は平年並であった（長崎県、熊本県、鹿児島県、佐賀県、宮崎県で5月末に連続してセジロウンカのトラップ捕殺が確認）が、初期の飛来量が少なく、その後の本田での発生も少なかったことから、発生量は全国的に少なかった。

他方、後期害虫の斑点米カメムシ類は、早期水稲の出穂期に当たる6月上旬から水田周辺雑草地での生息が多くなり始め、6月下旬から注意報の発表が始まり、9月上旬までの間に注意報が17府県から延べ23件発表された。

なお、平成20年12月9日に農林水産省統計情報部から公表された平成20年度産の水稲の作柄概況によれば、平成20年作は、おおむね天候に恵まれ、登熟は順調に推移したことから、全国では作況指数102（10a当たり収量543kg）であった。

農業地域別の作況指数は、北海道が106、東北が102、北陸が102、関東・東山が102、東海が101、近畿が103、

中国が103、四国が105、九州が101、沖縄が101であった。

2 その他普通作物病害虫

麦：春先の気象状況は、気温が高く、降雨が多かったことから、赤かび病の早期発生および発生量増加が懸念された。各地域においては、4月から5月の発生予察情報などにおいて適期の防除が呼びかけられ、その結果、赤かび病の発生が平年以下に抑えられた。なお、注意報は1件の発表があった。

大豆：8月以降、高温・小雨が続く、害虫の発生が助長され、大豆のほか野菜類、花き類を加害するハスモンヨトウを対象に8月末から9月初旬にかけて注意報が2件発表された。また、吸蜜性カメムシ類について9月から10月にかけ、注意報が2件発表された。

3 果樹病害虫

病害：カンキツかいよう病は、平成19年の台風被害（枝葉の損傷）により発生が広がった地域では、越冬病斑が多く見られ、平成20年作で影響することが予想されたことから、4月から防除が呼びかけられ、適期防除の結果、本病の発生は平年以下に抑えられた。

また、なしの黒星病は、春先の降雨が多かった地域で発生が多く見られ、4月以降の発生予察情報などで防除が呼びかけられ、注意報が6県から8件発表された。その他の果樹病害でも春先の発生が懸念され、なしの黒斑病の注意報が1件および疫病の注意報が2件、もものせん孔細菌病の注意報が1件、ぶどうのべと病の注意報が1件発表され、いずれも適期防除が呼びかけられ、被害に繋がる発生には至らなかった。

害虫：果樹共通の果樹カメムシ類の越冬量は平年以下であったが、5月中旬に園地へ飛来量が増加することが懸念された奈良県および岐阜県から注意報が発表された。その後、6月下旬以降、全国的に高温・少雨となり、9月中旬までに注意報が14県から延べ17件発表された。その他、りんごのハダニ類の注意報が2件、なしのナシヒメシクイの注意報が1件発表された。

表-1 病害虫発生・防除状況（平成 20 年 10 月 1 日現在：12 月 8 日現在の集計）

（単位：千 ha，％）

病害虫名	概 評	発生面積 (注 1) (前年比)	延べ防除 面積 (注 2) (前年比)	ハダニ類	北陸、東海でやや多い～多い。 他平年並以下。	7 (62)	54 (45)
(イネ)				(ナン)			
葉いもち	平年並以下。	293 (91)	1,197 (94)	黒斑病	全国的に平年並以下。北陸の 一部でやや多い。	1 (86)	40 (95)
穂いもち	概ね平年並以下、九州でやや 多い～多い。	227 (99)	1,227 (87)	黒星病	全国的にやや多い。	5 (104)	123 (84)
紋枯病	東北でやや多い～多い、他平 年並以下。	499 (82)	668 (86)	ナシヒメシクイ	全国的に概ね平年並。関東、 九州の一部でやや多い。	1 (102)	62 (106)
白葉枯病	平年並以下。	7 (35)	44 (50)	ハダニ類	全国的に概ね平年並。北陸、 中国の一部で多い。	5 (85)	38 (93)
ばか苗病	東北の一部でやや多い～多い、 他平年並以下。	9 (72)	822 (79)	カメムシ類	北陸、東海でやや多い。中国、 九州の一部でやや多い～多い。	2 (173)	20 (95)
もみ枯細菌病	概ね平年並、九州の一部でやや多 い。	39 (123)	55 (47)	アブラムシ類	全国的に概ね平年並。北陸の 一部で多い。	7 (86)	40 (97)
縞葉枯病	東海の一部で多い、近畿、中 国、九州の一部でやや多い～ 多い。他平年並以下。	98 (206)	0 -	(モモ)			
稲こうじ病	平年並以下。	109 (165)	56 (80)	せん孔細菌病	関東以北でやや多い～多い。 他平年並以下。	3 (91)	42 (105)
ニカメイガ	平年並以下。	68 (55)	364 (53)	灰星病	概ね平年並以下。東北でやや多 い。	1 (84)	33 (90)
セジロウンカ	平年並以下。	530 (72)	1,154 (95)	(ブドウ)			
トビイロウンカ	平年並以下。	45 (22)	709 (77)	晩腐病	概ね平年並以下。東北でやや多 い。関東、九州でやや多い～多 い。他平年並。	2 (96)	41 (89)
ヒメトビウンカ	近畿、中国、四国の一部でやや多 い、九州の一部でやや多い～多 い。他平年並以下。	613 (113)	1,103 (91)	べと病	関東、九州でやや多い～多 い。他平年並。	5 (106)	58 (96)
ツマグロヨコバイ	東海以北で平年並以下、近畿 以西で平年並。	463 (88)	794 (81)	灰色かび病	概ね平年並。関東の一部でやや多 い。	1 (101)	28 (91)
イネハモグリバエ	概ね平年並、東北の一部で多 い。	1 (50)	11 (213)	(カキ)			
イネドロオヒムシ	概ね平年並以下、関東の一部 で多い。	164 (84)	523 (90)	うどんこ病	近畿の一部でやや多い。他平 年並以下。	8 (102)	42 (86)
斑点米カメムシ類	全国的にやや多い。	505 (111)	1,303 (91)	落葉病類	東海でやや多い。関東、近畿 の一部でやや多い。他平年並。	5 (92)	40 (84)
アワヨトウ	平年並。	5 (75)	62 (90)	カメムシ類	東海以西でやや多い。	7 (238)	35 (131)
コブノメイガ	東海、近畿、中国及び四国で 少ない、他平年並。	164 (38)	344 (70)	カキクダアザミウマ	概ね平年並。四国の一部で多 い。	1 (89)	19 (84)
イネミズゾウムシ	北陸の一部で多い、他平年並以下。	597 (89)	740 (87)	(チャヤ)			
(ムギ類)				炭そ病	関東の一部で多い。九州の一 部でやや多い。他平年並以下。	25 (87)	76 (91)
さび病類	関東、中国の一部でやや多 い。他平年並以下。	24 (62)	204 (100)	チャノココクモンハマキ	平年並以下。	9 (59)	45 (89)
うどんこ病	関東、中国の一部で多い。他 平年並以下。	46 (93)	264 (102)	カンザワハダニ	平年並以下。関東の一部でや や多い。	24 (74)	90 (90)
赤かび病	平年並以下。	21 (89)	466 (93)	(キュウリ)			
雪腐病類	東北の一部で多い。他少ない。	36 (112)	92 (93)	べと病	関東でやや多い～多い。北陸 夏秋作でやや多い。 関東でやや多い～多い。北陸 夏秋作の一部で多い。	5 (97)	34 (93)
(ジャガイモ)				うどんこ病	4 (254)	29 (211)	
疫病	九州の一部で多い。他平年並以下。	24 (144)	419 (107)	(スイカ)			
(ダイズ)				つる枯病	概ね平年並。関東の一部でや や多い。	3 (115)	27 (97)
紫斑病	平年並み以下。中国の一部で 多い。他平年並以下。	7 (81)	49 (71)	(ハクサイ)			
べと病	関東、北陸、中国の一部で多 い。他平年並以下。	41 (91)	0 -	軟腐病	関東の夏作、秋冬作でやや多 い。他平年並。	1 (96)	18 (87)
葉焼病	九州の一部でやや多い。他平 年並以下。	16 (92)	0 (11)	白斑病	平年並以下。		
アブラムシ類	東北の一部でやや多い。関東の 一部で多い。九州の一部でやや多 い。東北、九州の一部で多 い。関東の一部でやや多い～多 い。	31 (120)	33 (70)	(キャベツ)			
ハスモンヨトウ	東北、九州の一部で多 い。関東の一部でやや多い～多 い。	32 (79)	72 (80)	黒腐病	概ね平年並。関東の夏作でや や多い。	1 (77)	19 (100)
ハダニ類	関東、北陸の一部でやや多 い。	7 (68)	4 (1,020)	コナガ	平年並以下。関東春作の一 部でやや多い。	5 (51)	42 (77)
カメムシ類	関東以西で平年並～やや多 い。	29 (85)	66 (90)	(タマネギ)			
(カンキツ類)				べと病	近畿、中国、九州の一部でや や多い。	4 (314)	15 (97)
そうか病	関東の一部で多い、近畿の一 部でやや多い。他平年並以下。	9 (106)	58 (84)	(野菜共通)			
黒点病	関東の一部で多い、九州でや や多い～多い。他平年並以下。	35 (71)	172 (63)	疫病	関東夏秋トマトでやや多い～多 い。	1 (76)	19 (83)
かいよう病	全国的に平年以下。四国、九 州の一部でやや多い。	17 (77)	48 (59)	灰色かび病	関東、九州の冬春トマトでや や多い～多い。	4 (71)	44 (73)
ヤノネカイガラムシ	全国的に平年並み。四国の一 部でやや多い。	3 (90)	44 (57)	アブラムシ類	東北、関東、北陸の夏秋キュ ウリで多い。	20 (86)	152 (88)
ミカンハダニ	近畿、中国、九州の一部でや や多い。他平年並。	46 (105)	48 (27)	ハダニ類	東北、関東、北陸のすいかで多 い。	8 (75)	48 (85)
カメムシ類	東海以西でやや多い～多 い。関東で平年並。	10 (394)	41 (191)	ハスモンヨトウ	関東の夏秋ナス、サトイモで やや多い。	3 (49)	14 (46)
(リンゴ)				ヨトウガ	平年並。	2 (49)	40 (72)
モニリア病	平年並以下。	0 (10)	7 (14)	(キク)			
斑点落葉病	全国的に平年並以下。関東の 一部でやや多い。	8 (69)	123 (42)	白さび病	東北の一部でやや多い。他平 年並以下。	1 (60)	5 (63)
黒星病	全国的に平年並以下。東北の 一部でやや多い。	1 (37)	79 (34)	アザミウマ類	関東の一部でやや多い。他平 年並以下。	1 (61)	6 (76)
腐らん病	全国的に平年並以下。東北の 一部でやや多い。	4 (50)	32 (55)	アブラムシ類	近畿の一部でやや多い。他平 年並以下。	1 (63)	4 (64)
ハマキムシ類	全国的に平年並以下。北海道 でやや多い。	1 (66)	59 (894)				

注 1：標本抽出された調査定点毎に定められた調査方法に従い病害虫発生度（無，少，中，多，甚の 5 段階）を算出し，調査地区内の栽培面積を各発生程度の割合に乗じて発生程度別面積を算出。無発生を除く。発病程度別面積「少」～「甚」を合算した数値。

注 2：当該病害虫を対象として複数回防除を実施した場合や 2 種類以上の病害虫を対象とする混合剤による防除を実施した場合は，その回数や剤数を乗じて散布面積を算出した数値。

表-2 平成 20 年発生子察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（注：数字は発表年月日，斜体アンダーラインは警報）

(11 月 30 日現在)

①イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	コブノメイガ	その他の病害虫
北海道							
東北	青森				7/31		
	岩手				7/17, 8/8		
宮城	秋田				7/7, 7/23		
	山形				7/18, 8/8		
福島	福島		7/30		8/1		
	福島		8/1				
関東	茨城				8/13		
	栃木						
群馬	群馬						
	群馬						
埼玉	埼玉						
	埼玉						
千葉	千葉						
	千葉						
東京	東京						
	東京						
山梨	山梨						
	山梨						
長野	長野						
	長野						
北陸	新潟				7/30		
	富山				7/16, 7/29		
石川	石川						
	福井						
東海	岐阜				8/8		縞葉枯病：6/13
	愛知						
三重	三重						
	三重						
近畿	滋賀				8/6		
	京都				7/25		
大阪	大阪						
	大阪						
兵庫	兵庫						
	兵庫						
奈良	奈良						
	奈良						
和歌山	和歌山						
	和歌山						
中国四国	鳥取				7/23		
	島根				7/30		
岡山	岡山				8/1		
	岡山						
広島	広島				6/30, 7/15		
	広島						
香川	香川						
	香川						
愛媛	愛媛						
	愛媛						
高知	高知				8/26		
	高知						
九州	福岡				7/2, 7/31		
	福岡						
佐賀	佐賀						
	佐賀						
長崎	長崎						
	長崎						
熊本	熊本						
	熊本						
大分	大分						
	大分						
宮崎	宮崎						
	宮崎						
鹿児島	鹿児島						
	鹿児島						
沖縄						9/1	

(11月30日現在)

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他	⑤花き類	ハスモンヨトウ	その他
北海道			ダイズわい化病：6/2 (ダイズ), インゲン黄化病：6/2 (菜豆), 疫病：6/20 (ばれいしょ), マメアブラムシ：7/11 (アズキ), マメシクイガ：8/15 (ダイズ), 褐斑病：9/3 (テンサイ)			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島					アザミウマ類：7/31 (リンドウ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京都 神奈川県 山梨 長野 静岡	8/28 (ダイズ)			8/28 (花き類共通)	
北陸	新潟 富山 石川 福井					
東海	岐阜 愛知 三重					
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫県 奈良 和歌山					
中国四国	鳥取 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/5 (ダイズ)	うどんこ病：4/4 (オオムギ) 赤かび病：4/11 (麦類)		9/5 (花き類共通)	
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島		ミナミアオカメムシ：9/10 (ダイズ) ミナミアオカメムシ：10/3 (ダイズ)			
沖縄						

(11 月 30 日現在)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北 海 道			モモシンクイガ：7/28 (リンゴ)
東 北	青森		ハダニ類：4/24・7/10 (リンゴ)
	岩手 宮城 秋田 山形 福島		黒星病：4/28・7/18 (ナシ), せん孔細菌病：(モモ)
関 東	茨城		黒星病：5/1・7/4 (ナシ)
	栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡		ナシヒメシンクイ：5/1 (ナシ), 黒星病：6/4 (ナシ), カンザワハダニ：4/7・10/2 (茶) 疫病：5/8 (ナシ), 黒星病：6/13 (ナシ) 疫病：5/14 (ナシ)
北 陸	新潟 富山 石川 福井		ハダニ類：7/30 (ナシ)
東 海	岐阜 愛知 三重	5/14・8/21 (果樹全般) 5/28 (果樹全般) 9/9 (果樹全般)	黒星病：6/16 (ナシ)
近 畿	滋賀	6/18 (カキ, モモ, ナシ)	
	京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	5/13 (ナシ, ウメ, モモ), 7/7 (カキ), 9/1 (カキ, ナシ, ミカン) 8/22 (果樹全般)	ミカントゲコナジラミ：7/29 (茶)
中国 四国	鳥取	7/11 (果樹全般)	黒星病・黒斑病：6/25 (ナシ)
	島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	7/28 (果樹全般) 9/8 (果樹全般)	
九 州	福岡	8/28 (果樹全般) 9/5 (果樹全般)	カンザワハダニ：8/25 (茶)
	佐賀 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/12 (果樹全般) 8/27 (カンキツ類, カキ, ナシ) 9/2 (カンキツ, ナシ, カキ)	べと病：7/15 (ブドウ) チャノキイロアザミウマ：5/9 (茶), クワシロカイガラムシ：5/9 (茶)
沖 縄			

(11月30日現在)

④野菜		ハスモンヨトウ	その他
北海道			
東北	青森		ネギアザミウマ：7/31 (ネギ) ネギアザミウマ：7/31 (ネギ)
	岩手		
宮城	秋田		
	山形		
福島	福島		
関東	茨城	8/28 (野菜共通)	べと病：6/9 (ネギ) ハイマダラノメイガ：8/28 (アブラナ科) ネギアザミウマ：10/7 (ネギ, タマネギ, ラッキョウ)
	栃木		
	群馬		
	埼玉		
	千葉		
	東京		
	神奈川		
	山梨		
	長野		
	静岡		
北陸	新潟		
	富山		
福井	福井		
東海	岐阜		灰色かび病：9/4 (トマト)
	愛知		
三重	三重		
近畿	滋賀		ハイマダラノメイガ：8/7 (アブラナ科)
	京都		
	大阪		
	兵庫		
和歌山	和歌山		
中国四国	鳥取	9/5 (野菜共通)	べと病：5/1 (タマネギ) タバココナジラミ類：10/2 (果菜類)
	島根		
	岡山		
	広島		
	山口		
	徳島		
	香川		
	愛媛		
	高知		
九州	福岡		すすかび病：3/4 (ナス) 灰色かび病：2/1 (トマト, イチゴ), べと病：3/1・7/1 (白ネギ), さび病：4/1 (白ネギ) うどんこ病：1/25 (いちご), 灰色かび病：1/25 (トマト), 灰色かび病：2/26 (果菜類), タバココナジラミ類：2/26 (キュウリ) 灰色かび病：2/21 (イチゴ)
	佐賀		
	長崎		
	熊本		
	大分		
	宮崎		
鹿児島			
沖縄			

(2) 特殊報

(11月30日現在)

		①普通作	②果樹類	③野菜類 (花き類含む)
北海道		10/22: マメ類, 各種作物, 牧草のヘリキスジノメイガ		10/22 野菜類のヘリキスジノメイガ
東北	青森 岩手 宮城 秋田		11/14: ナシのヒメボクトウ	3/3: トマトのトマト萎凋病 (レース3) 10/1: 野菜類, 花き類のアシクロハモグリバエ 3/7: トルコギキョウのトルコギキョウえそ輪紋病, キクのキク茎えそ病, 9/8: メロンのメロンホモプシス根腐病
	山形 福島	9/1: マメ科植物のアルファルファ タコゾウムシ	1/9: リンゴ, スモモのスモモヒメシン カイ, 6/30: モモのモモ果実赤点病 (仮 称)	3/18: トマトのトマト葉かび病 (レース4.9.11), 9/1: ヒマワリのアワダ チソウゲンバイ, 9/12: リンドウのリンドウ黒斑病
関東	茨城 栃木	10/14: オオムギのオオムギ縞萎縮 病		5/12: トマト, ミニトマトのトマト葉かび病 (レース4.9, レース4.9.11), 6/11: トマトのトマト茎えそ病 (仮称), 10/7: プラタナス, イタリアンポ ブラのプラタナスゲンバイ, 11/21: ホウレンソウのアシクロハモグリバエ 1/16: パンジーのツマゴロヒヨウモン, 3/25: モントレイイトスキのクロ トンアザミウマ, 10/30: キュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称) 11/12: シソのサビヒョウタンゾウムシ, 11/28: イヌマキのケブカトラカ ミキリ
	群馬 埼玉 千葉		8/8: マンゴーのマンゴーツメハダニ	2/19: パンジー, ビオラのスミレ類根腐病, 2/28: スイカ (トウガン台木) のスイカ黒点根腐病, 3/10: ホウレンソウのハコベハナバエ, 4/28: トマ トのすすかび病
	東京 神奈川			1/16: トルコギキョウのトルコギキョウえそ萎縮病 (仮称), 7/29: スター チスの Grapevine Algerian latent virus による病害, 10/6: 宿根アスター, ヒ マワリ, アゲラタム (カッコウアザミ) のアワダチソウゲンバイ, アルスト ロマリアのアルストロメリア黒斑病 (仮称), 10/21: プラタナスのプラ タナスゲンバイ
	山梨 長野	5/26: コムギのコムギ縞萎縮病		1/16: トルコギキョウのトルコギキョウえそ萎縮病 (仮称), 7/29: スター チスの Grapevine Algerian latent virus による病害, 10/6: 宿根アスター, ヒ マワリ, アゲラタム (カッコウアザミ) のアワダチソウゲンバイ, アルスト ロマリアのアルストロメリア黒斑病 (仮称), 10/21: プラタナスのプラ タナスゲンバイ
	静岡			
北陸	新潟		7/30: 西洋ナシのセイヨウナシ褐色斑 点病 (仮称)	7/30: スイカ (ユウガオ台木) のスイカえそ斑点病
	富山 石川 福井			7/10: トマトのトマト黄化葉巻病, 9/12: トマトのタバココナジラミバイ オタイプQ
東海	岐阜		1/9: ナシ (果実) のサクセスキクイム シ	8/27: トウガラシのトウガラシ・ピーマンモザイク病
	愛知 三重	10/10: 水稲, ダイズのミナミアオ カメムシ 2/28: バレイショのジャガイモシ ストセンチュウ		1/29: トマトのトマト萎凋病 (レース3)
近畿	滋賀 京都 大阪 奈良 和歌山	2/27: ダイズのダイズ子実汚斑病	1/24: いちじくのイチジクヒトリモドキ 10/1: モモのモモ果実赤点病 (仮称)	2/4: キュウリのキュウリ黄化えそ病
中四国	鳥取 岡山 広島 山口 徳島			10/10: メロンのメロン微斑病 (仮称) 6/17: バラのバラハオレタマバエ, 10/31: キクのキク茎えそ病
	香川	11/5: 水稲, ダイズのミナミアオ カメムシ		4/30: ホウレンソウのべと病 (レース6またはレース7), 5/30: シンビジ ウムのランえそ斑病, 11/28: ボインセチアのルイスアケハダニ 5/1: レタスのパーティシウム萎凋病, 白絹病, 6/5: トマト, ミニトマ ト, ピーマン, ナスのタバココナジラミバイオタイプQ
	愛媛 高知			2/8: ニガウリの Melon yellow spot virus による病害, 10/14: ピーマン, シ シトウのチャノキイロアザミウマ
九州	福岡			2/28: キュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称), 8/29: メロンのメロン退緑 黄化病 (仮称), 2/4: キュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称), 7/30: 野菜類のミナミアオ カメムシ
	佐賀 長崎	7/30: 水稲, ダイズのミナミアオ カメムシ	7/30: 果樹類のミナミアオカメムシ	2/15 メロン退緑黄化病 (仮称), キュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称), 5/1: トマトのすすかび病, 5/22: キュウリのキュウリ黄化えそ病, 6/20: レタスの根腐病, ヒマワリのアワダチソウゲンバイ
	熊本 大分			1/28: キクのキク茎えそ病, 2/4: メロンのメロン退緑黄化病 (仮称), キ ュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称)
	宮崎 鹿児島	9/24: カンショのヨツモンカメノ コハムシ	1/30: マンゴーのマンゴーシロカイガ ラムシ	2/4: メロンのメロン退緑黄化病 (仮称), キュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称) 3/10: ベゴニアのベゴニア株腐病 (仮称), 2/4: メロンのメロン退緑黄化 病 (仮称), キュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称) 2/15: オクラのアカホシカメムシ, ピーマンのナスコナカイガラムシ, 3/13: メロン退緑黄化病 (仮称), キュウリのキュウリ退緑黄化病 (仮称), 9/12: ミニトマト, ナスのミツユビナミハダニ
沖縄			8/1: マンゴーのマンゴー枝枯細菌病 (仮称)	

4 野菜および花き病害虫

病害：全国的に発生が多く見られた病害はなく、ねぎのべと病およびさび病、なすのすすかび病、たまねぎのべと病、トマト・いちごの灰色かび病等について生産指導上の注意が呼びかけられた。

害虫：6月下旬以降、気温が高かったことから、野菜類・花き類全般の害虫であるハスモンヨトウの発生が関東以西の広い地域で多く見られ、注意報が2件発表された。

なお、野菜類・花き類において、新規発生病害に関する特殊報の公表が相次いでいる（平成20年1月から11月末までに42件）。これらの多くは、アザミウマ類およびコナジラミ類が伝搬するウイルス病である。特に「ウリ類黄化症」の原因が、タバココナジラミに媒介される新たなウイルス病「退緑黄化病（仮称）」（病原ウイルス：*Cucurbit chlorotic yellows virus* (CCYV)（仮称））であると判明し、これまで発生の要因と考えられていたタバココナジラミバイオタイプQの防除対策に加え、原因がウイルスであることを踏まえた防除対策が行われている。

これらの虫媒性ウイルス病およびその媒介虫の防除対策は、健全種苗の使用、罹病株の早期抜き取り、雑草の除草、殺虫剤の散布を組み合わせた防除や、施設開口部への防虫ネットの設置、栽培終了後の蒸し込み処理が効果的であり、これらの防除方法を組み合わせた総合的防除対策を行うことが有効であり、特に、伝染のもと（伝染源）がどこであるか把握し、伝染の流れ（伝染環）を断ち切ることが、効率的かつ効果的な防除を行う上で重要である。

IV 病害虫防除事業

1 ウリミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において不妊虫放飼による再侵入防止対策を実施した。

2 ミカンコミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において誘殺剤散布による再侵入防止対策を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美群島、沖縄県および小笠原諸島の被害の著しい野菜ほ場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

また、昨年発生が確認された鹿児島県出水市および指宿市において、発生調査および防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

奄美群島の喜界島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県の久米島および津堅島においてアリモドキゾウムシおよびイモゾウムシを対象にして不妊虫放飼などによる根絶防除を継続して実施している。

また、鹿児島県指宿市において平成18年にアリモドキゾウムシが、本年11月にイモゾウムシの発生が確認されたことから、これらについて根絶防除を実施している。

5 カンキツグリーンング病

本病の根絶を目指して、鹿児島県大島郡喜界町において昨年4月から緊急防除を実施している。

V 農林水産航空事業

本年度の農林水産航空事業の農業関係の延べ面積は、2,512千haとなる見込みである（計画値）。作物別では、水稲では77千ha、畑作・果樹・畜産等では8千haとなっているほか、ミバエ類の侵入防止対策として2,427千haとなっている。

無人ヘリコプターによる病害虫防除は、904千ha、対前年を4%上回る見込みである。作物別では、水稲では775千ha、麦では64千ha、大豆その他では65千haとなっている。

VI 農薬の出荷状況

平成20農薬年度（平成19年10月1日～平成20年9月30日）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では2%増の221千tまたはkl、金額では4%増の3,284億円と推定される（表-3）。

表-3 平成20年農薬年度農薬出荷状況（推定）

（単位：t, kl, 百万円, %）

用途		平成19農薬年度出荷	平成20農薬年度	
			出荷	対前年比
殺虫剤	数量	78,083	83,943	102.4
	金額	99,757	104,924	107.1
殺菌剤	数量	47,132	45,668	96.6
	金額	79,003	74,365	93.8
殺虫殺菌剤	数量	23,016	23,213	100.2
	金額	31,345	33,199	105.7
除草剤	数量	57,751	61,665	106.6
	金額	96,576	105,847	109.6
その他	数量	6,243	6,132	98.2
	金額	10,126	10,018	98.9
合計	数量	212,225	220,621	101.9
	金額	316,807	328,353	104.1

農産安全管理課農薬対策室調査（農薬工業会加盟会社対象）。